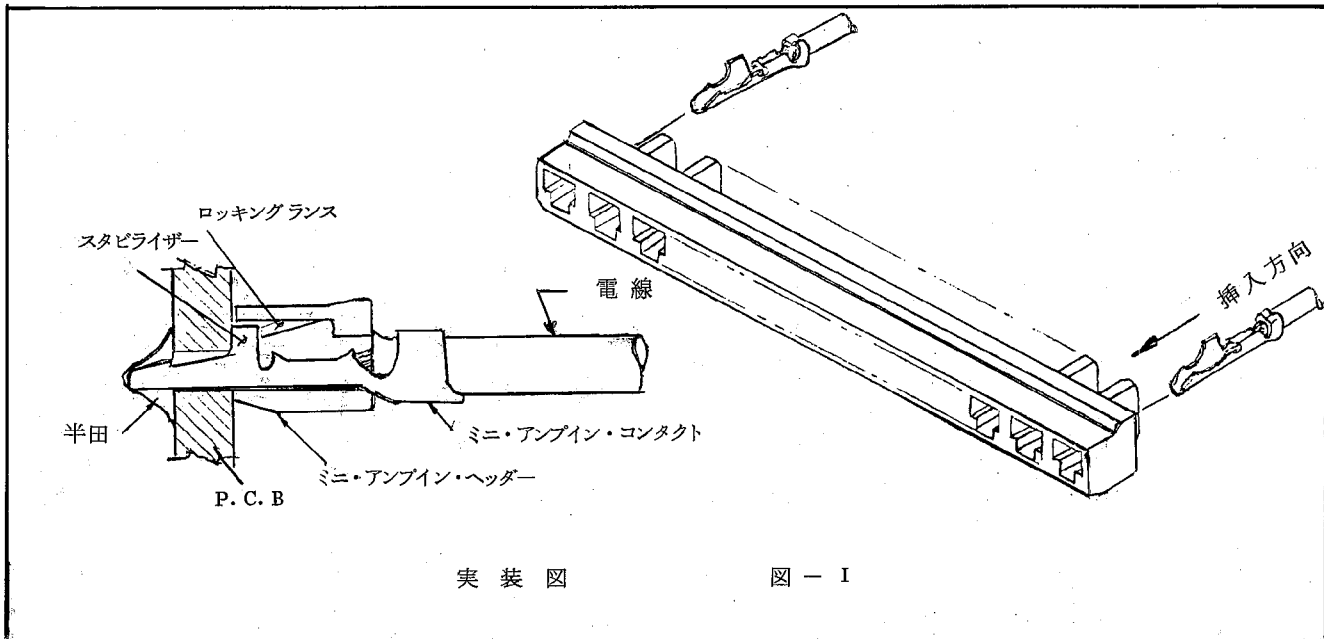


この取扱説明書は、ミニ・アンプイン・ヘッダー（製品型番：172020-1）の取扱方法について説明しています。御使用前によくお読み下さい。



実装図

図 - I

はじめに

ミニ・アンプイン・ヘッダーは、ミニ・アンプイン・コンタクトをプリント基板に挿入し、ハンダ付けするまでの間、コンタクトを整列するものです。

すなわち、このヘッダー方式により、ミニ・アンプイン・コンタクトをひとつのコネクターとして扱うことが出来、挿入作業を簡略化出来るので、組立ラインでの省力化とスピードアップが可能となります。また接続個所の集中によって検査やメンテナンスも容易に出来ます。このヘッダーは13極が基本部品ですが、必要に応じて1極～12極までカットして使用することが出来ます。

内容

1. コンタクト・電線・プリント基板の選定
2. 圧着作業とコンタクト挿入作業の注意事項
3. プリント基板への挿入作業の注意事項
4. 必要な極数に分割して使用する時の注意事項

1. コンタクト・電線・プリント基板の選定

ミニ・アンプイン・ヘッダーに使用出来るコンタクトと電線およびプリント基板は下表-Iの通りです。

コンタクト	電線	プリント基板
ミニ・アンプイン・コンタクト (型番) 170197-2	電線範囲 0.2~0.56 mm ²	基板厚 1.6±0.14 mm
	絶縁被覆外径 1.6~2.3 mm	基板穴径 1.4±0.1 mm
		基板ピッチ 4 ±0.07 mm

表 - I

2. 圧着作業とコンタクト挿入作業の注意事項

上記表-Iのコンタクトに使用する電線を圧着した後、ミニ・アンプイン・ヘッダーにコンタクトを挿入します。

2.1 コンタクトを挿入する時のコンタクトとヘッダーとの位置方向は、図-Iに示す方向になるようにし、コンタクトをこじらないようにまっすぐ挿入して下さい。

→ コンタクトは、図-Iに指示してある方向以外には挿入しないで下さい。無理に挿入するとコンタクトを変形させることがあります。

2.2 ヘッダーにコンタクトを挿入した時、コンタクトのスタビライザーがヘッダーのロックングランスに引っかかっていることを確認して下さい。

→ コンタクトのスタビライザーがヘッダーのランスに引っかかる時は『ガクン』という手ごたえがあります。

→ コンタクトのスタビライザーがヘッダーのランスに引っかかったかどうかは、コンタクトを挿入方向と逆方向に軽く引く張り、引っかかっている感触を確認して下さい。但し、ヘッダーに挿入されているコンタクトの電線を引っ張った時のコンタクト保持力は1 kg程度です。

→ 挿入ミスでコンタクトをヘッダーから抜いた場合、ヘッダーを新しいものと取り換えて下さい。

3. プリント基板への挿入作業の注意事項

ミニ・アンプイン・ヘッダーに必要な極数分のコンタクトを挿入した後、表-Iのプリント基板に挿入します。

3.1 ヘッダーに挿入されたコンタクトをプリント基板に挿入する時は、図-IIのようにヘッダーを手前に倒し、プリント基板の穴位置を確認しながら挿入して下さい。

→ プリント基板の穴に入れずらい時は、電線を適当に動かして入れて下さい。

3.2 全部のコンタクトが穴に入っているのを確認したら、ヘッダーを起こして挿入して下さい。

→ コンタクトをプリント基板に挿入し終った時、ヘッダーとプリント基板の間は、0.5～1.5 mm程度の隙間があります。

→ コンタクトがプリント基板に入っていることを確認して下さい。

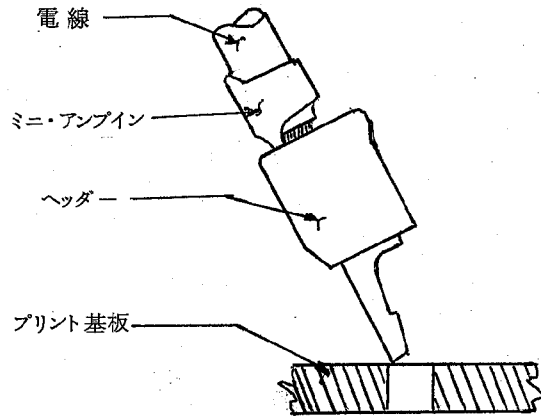


図 - II

4. 必要な極数に分割して使用する時の注意事項

このミニ・アンプイン・ヘッダーは、必要に応じヘッダーをカットして使用することが出来ます。

4.1 ヘッダーをカットする時は、必要な極数分の次のキャビティーの真中を糸のこ又はカッターナイフでカットして下さい。

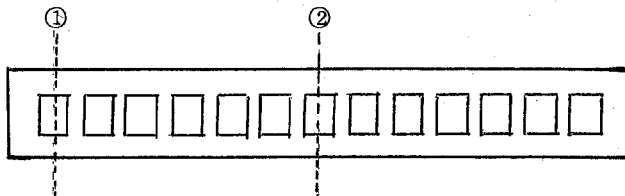


図 - III

例えば、12極で使用したい場合は図-IIIの①の部分を実線としてカットし、6極を2つで使用したい場合は、②の部分を実線として使用して下さい。

→ ヘッダーをカットする時は、キャビティー部分をカットし、キャビティー両側の壁の部分はカットしないで下さい。